

令和5年度

坂城町高校生タイ国研修事業 研修レポート



令和6年3月24日～28日

坂城町高校生タイ国研修事業の実施にあたって

坂城町高校生タイ国研修事業は、平成27年度に初めて実施し、タイ国に進出している町内の有力企業8社の9工場について、年に3工場の視察をお願いする中で、3年を1サイクルとして3回の研修を実施しました。平成30年度からは、企業の御理解と御協力をいただく中で、2サイクル目として継続して事業を実施していただくこととしましたが、新型コロナウイルス感染症の状況等を鑑み、令和元年度から令和4年度までは事業の中止という苦渋の決断をいたしました。

この度、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類」に移行したこと等を受け、5年ぶりに事業を再開することができました。

工業の町・坂城町の企業は世界各国に進出しており、タイ国へも9社が進出しています。町では、これまでのタイ国研修の成果を踏まえる中で、異国の環境でものづくりを進める企業の姿を直接目にし、また、その国や暮らす人々の魅力を感じ交流することは、多感な高校生にとってかけがえのない経験となり、町のものづくりを学ぶ貴重な場となることから、今後も状況を注視しつつ事業を実施していく予定です。

参加した高校生8名の皆さんは、3月24日から28日までの5日間の日程で、タイ国で研修をいたしました。タイ東部のナコンラチャーシマに進出している、アルプスツール、カヤマ、そしてタイ中部のシラーチャに進出している高松製作所の町内企業3社及び在タイ日本国大使館の見学のほか、タイ国の歴史・文化に直接触れる異文化体験を行いました。

帰国後、5月23日には研修報告会が行われ、参加された皆さんからは、それぞれ積極的な研修発表がなされました。

今回のこの研修を通じて、将来、坂城町を支える若者が、国際理解や国際感覚を養うとともに、将来展望を考える有意義な機会になればと期待しております。

令和6年(2024年)6月

坂城町長 山村 弘



前列左から2番目以降：長谷川、高橋、伊東、町長、宮崎、服部、櫻井、宮嶋、竹内（敬称略）
（しなの鉄道坂城駅にて）

渡 航 者

	職 名	氏 名	読み仮名	備考
①	坂城町企画政策課 課長 (Manager)	伊 達 博 巳 (HIROMI DATE)	だて ひろみ	団 長
②	坂城町企画政策課 係長 (Assistant Manager)	宮 下 佑 耶 (YUYA MIYASHITA)	みやした ゆうや	事務局長
③	坂城町商工農林課 主任 (Staff)	上 原 芳 実 (YOSHIMI UEHARA)	うえはら よしみ	事務局員
④	上田高校1年生 (High schooler)	伊 東 瑛 大 (EITA ITO)	いとう えいた	P4~P10
⑤	上田高校1年生 (High schooler)	宮 嶋 凜 (RIN MIYAJIMA)	みやじま りん	P11~P15
⑥	上田高校1年生 (High schooler)	櫻 井 瑛里子 (ERIKO SAKURAI)	さくらい えりこ	P16~P20
⑦	長野工業高等専門学校2年生 (High schooler)	竹 内 陽 祐 (YOSUKE TAKEUCHI)	たけうち ようすけ	P21~P25
⑧	長野工業高校1年生 (High schooler)	宮 崎 快 斗 (KAITO MIYAZAKI)	みやざき かいと	P26~P31
⑨	上田東高校1年生 (High schooler)	服 部 遼太郎 (RYOTARO HATTORI)	はっとり りょうたろう	P32~P36
⑩	坂城高校2年生 (High schooler)	高 橋 瑛 優 (AYU TAKAHASHI)	たかはし あゆ	P37~P41
⑪	坂城高校2年生 (High schooler)	長谷川 瑠陽愛 (RUHIA HASEGAWA)	はせがわ るひあ	P42~P47
⑫	近畿日本ツーリスト添乗員 (Tour Conductor)	加 々 美 美 彩 (MISAE KAGAMI)	かがみ みさえ	添 乗

※学年・職名は3月の研修時点

～坂城町タイ国研修旅行を通して～

伊東 瑛大



はじめに

まずは、この坂城町タイ国研修に参加できてすごく良い経験になったと感じます。2つ理由があり、1つ目は、海外経験を経ることができたからです。海外経験を経ると、異文化理解の向上や語学力の向上、自己成長と挑戦などを得ることができます。特に自分は、異文化理解の向上と自己成長と挑戦が得られたと感じました。なぜなら、ガイドさんからタイに関する詳しいお話を聞き、自分で調べた以上の情報を得ることができたからです。また、現地学生との交流で日本のことを教えたり、逆にタイのことを聞いたり、自分の使える英単語を駆使して会話ができたことで、英語のスピーキング・リスニングの成長につながったためです。

2つ目に、日本とは全く違う「異国」の風を肌で感じられたからです。日本とは、気候も食事も文化も、何をとっても違っていて衝撃を受けました。

歴史と文化については、タイは仏教が根付いていて仏教寺院や宮殿などの歴史的建造物が多く、実際に見学した古都アユタヤのワット・マハータートなどの歴史的な遺跡が残っています。自然については、タイには美しいビーチが広がる南部や、青々とした森林が広がる北部など、多彩な自然があります。食文化については、タイ料理は世界的にも人気があり、スパイシーで香り豊かな味が特徴です。トムヤムクンやグリーンカレーなどが代表的な料理で、実際にトムヤムクンを食べて、日本で食べたことのない強烈な辛さを感じました。またタイでは屋台が非常に多く、実際にドリアンやマンゴーを食べて、日本では感じることのできない新鮮さを感じられました。タイ人は親しみやすく、観光客に対しても温かく接してくれるため、快適な国であると感じました。

以上の2つが良いと思った経験です。



ワット・マハータートでの集合写真

企業視察

【株式会社アルプスツール】

ナコンラチャシマ県のステナリ工場に見学させていただきました。まず品質検査室を見せてもらって、日本とは違い手動と機械を駆使して厳密に検査していました。検査室には日本本社から派遣されてきた日本人検査官もおり、力を入れているんだなと実感しました。

ステナリ工場では鉄の研磨などを主としていて、日本から送られてきた機械を使用していました。日本との違いが顕著だと感じたのは、水を硬水から軟水に変える機械があることでした。水で鉄を洗うときに硬水だと鉄が錆びついてしまうため、軟水に変える機械が必要であると知って、「こういうところに違いが出るのか」、また、「現地に合わせる必要がある」と感じました。ただ、アルプスツールの取引先に日系企業が多く、タイのローカル企業との取引が少ないところが課題であるとおっしゃっていました。確かに日系企業との商談は日本語で取引できますが、タイのローカル企業との商談はタイ語でコミュニケーションを取らなければならない、社内に日本語・タイ語の両方が話せる社員が不足しているため、大規模事業展開がしにくい点があります。日本とタイとの技術の差が縮まってきており、今必要とされているのがコミュニケーション能力のある人材であると知れて勉強になりました。



【株式会社カヤマ】

アルプスツールさんと同じくナコンラチャシマ県にある工場を見学させていただきました。この工場では鉄加工とアルミ加工を主として生産しており、安全面については国際的なルールに則っています。車の空調を生産し海外へ輸出するなど幅広く活動しています。

鉄加工機械は日本からの中古品を流用しているため、日本よりも工場内に人が多いという特徴がありました。またロボット運用もしており、独自のプログラムを組むなど試行錯誤しているのが感じられました。なるべく不良品のクレームを出さないよう、カメラで品質チェックをして不良品かどうか判断しており、品質については細心の注意を払っていることが分かりました。またタイの残業への意識は日本より厳しく、責任者の人はなるべく残業させないという観点を重視しているみたいです。それに、入社して一ヶ月で辞める人も多い為、どうやったら就職させるかという面でも考えているみたいです。こういう労働面の内情を知れたことで、日本との違いが明確に見えて面白かったです。



【株式会社高松製作所】

シラーチャ県に工場がある高松製作所さんを見学させていただきました。この工場は工業団地が近く、首都からそんなに離れていないという地理的条件の有利性からここに工場を建てることにしました。第1工場では鋳鉄をしており、車のエンジンやコンプレッサー、トラクターの部品を主として生産しています。鋳鉄の生産過程は、鉄屑を検査→溶解→溜め込んだ鉄を水と砂の型へ→造形マシンで形作る→固めて分解→砂をとり削って固定、という手順だそうです。機械加工をしており、ニーズに合わせて生産しています。顧客は日系企業が多いそうです。

また、第2工場ではアルミ加工をしており、車のブレーキを生産しています。もちろん検査を丁寧にしており、IATF16949の公認で、品質管理には特に力を入れています。アルミ加工品は鉄加工品より現地の企業に拡大しており、多様な企業との関わりを持っています。鉄とアルミの2枚看板で名を馳せています。



【在タイ日本大使館】

在タイ日本大使館さんを見学させていただきました。タイについて、またタイと日本との関係を、駐在員さんの経験を踏まえて教えてもらいました。

まずはタイの基本的なことを教えてもらいました。タイ王国は熱帯に位置し、一般的には暑く湿度が高い気候で、一年を通じて高温多湿であり、気温は30度前後を保つことが多いです。タイの特産品としては、米、タピオカ、ゴム、パイナップル、マンゴーなどの農産物が挙げられます。タイの文化は多様で、仏教が中心となっています。タイの仏教は日本の仏教とは違う上座部仏教で、出家する人が非常に多いです。修行している僧に対して仏教徒は尊敬を抱いていて、食事をあげるなど色々とサポートしています。またタイには仏暦というものがあり、西暦に543年を足したものが仏暦になります。

(現在は仏暦2567年。) 仏教の影響を受けた建築や芸術、お祭りなども見られます。首都バンコクは日本の東京と同じくらいの発展度があり、バンコクの道路は常に渋滞しているため、小回りがきくオートバイ(日本メーカー)が多いです。ただ、郊外にはスラムがあるなど景色が180度違うことから、都会と田舎で格差が広がっていることが問題になっています。

また、タイには正月が1月1日・春節・ソンクラーンの3回あります。特にソンクラーンは国民のほとんどが参加する程大事な儀式で、タイだけでなく近隣諸国もこの儀式をしています。また日本とタイとの関係は江戸時代の朱印船貿易の時からあり、アジア・太平洋戦争を経て、現在でも深い関係にあります。訪日タイ人は132万人、訪タイ日本人180万人、日系企業6000社、日本語学習者18万人と色んな面で深い交流が続けられています。



【さいごに】

今回の研修旅行を振り返って、本当に色んなことを知れて良かったと感じました。特に企業見学を通して、「坂城町から世界へ」というのを肌で実感して少し誇らしく感じました。現地に対応している各社の企業努力を見て、「だからタイで成功しているのか」ということが知れて、このことはいずれ自分が社会に出たときに必要になると思うので、今回知れて本当に良かったです。またホテルのエレベーターに乗っていた時、そのエレベーターが三菱製で、カヤマさんが生産しているエレベーターのシャフトの顧客に三菱が含まれていたのも、「もしかしたらカヤマさんの部品が使われているのかもしれない!」と思い少し興奮しました。こういう、普段だったら気づかない小さな事を今回の研修を通して気づけたことが少し嬉しくて、これから海外に行ったときには「ここには日本企業が関わっているかも知れない」と疑問を持って、実際に調べたりすることが一種のルーティンになるかもしれません。また、日本とタイとの違いを随所で顕著に感じられて、「もっと知りたい!」というさらなる知的好奇心が出てきたので、本当に良い経験になったと思います。タイに行く前は遠い異国の地でしたが、帰ってきてからは日本とタイとの深い繋がりを知れて、前よりも身近に感じています。いつか自分も日本と遠い異国の地を繋ぐ人になり、同じような経験を他の人にも経験してほしいです。

最後になりますが、今回の坂城町タイ国研修旅行に参加させていただきありがとうございました!

タイ国研修に参加して学んだこと

宮嶋 凜

○はじめに

3月24日～28日に3泊5日でタイに研修に行ってきました。初めての海外だったので、楽しみな気持ちと不安な気持ちがあったけれど、実際に行ってみると日本では感じることやできないようなことをたくさん経験できてとても楽しかったし、「海外に行って英語で会話してみたい」ということも叶って充実した5日間でした。



⇐ホテルから見たバンコク

○企業視察

【株式会社アルプスツール】

アルプスツールでは、ある程度形ができたもの（鋳物）を加工していく作業を主にしています。アルプスツールのタイ工場は日本にある工場を小さくしたような感じで、やっている仕事は日本とほぼ同じです。鋳物を加工する以外に表面処理や塗装も行っていて、材料から塗装までの全ての工程をこの工場で行っています。そのため、日本の工場よりも多くの種類の仕事をしています。

タイの工場では、日本から中古で買った機械とタイで買った機械を使って作業をしています。でも、大量生産をおこなっていないため、中には動いていない機械もあるそうです。また、アルプスツールではタイのお客さんとローカルでや

り取りをして製品を作るということもしています。

視察の途中には、カオニャオ・マムアンをいただきました。名前を聞いたことがあるだけで、見たときは甘いもち米にマンゴーがのっているのに驚いたけれど、食べてみると思っていたよりもおいしかったです。



【株式会社カヤマ】

カヤマには、第1工場から第5工場まであり、第1工場から第4工場では鉄の加工をしていて、第5工場ではアルミの加工を行っています。タイの工場では、2人の日本人が働いています。また、工場では210台の加工機械と35台の検査機械が動いていて、人の目で確認できないような細かいところは画像を使って確認していました。機械は1日に約21時間稼働しているそうです。

日本の工場とタイの工場の違うところは、日本の工場ではほぼ機械を使って作業しているけれど、タイの工場では機械も使いつつ、人の手も使って作業しているところです。働いている人が多いため、正社員とそうではない人、資格を持っている人など、帽子の色でどのような人がその仕事をしているのかがすぐわかるように工夫されていました。

【株式会社高松製作所】

高松製作所は、3人の人がつくったグループ会社です。主にエレベーターや自動車、ポンプ車などの部品を作っています。この工場では、溶かして削るという工程を行っています。溶かすという工程を行うことから温度管理をしっかりとっているそうです。製品は三菱など様々な会社に向けて作っているそうです。

また、高松製作所では社食もいただきました。パッタイとカオマンガイを食べました。量が多くて全部食べ切ることが出来なかったけれど、パッタイはタイ風の焼きそばでとても食べやすく美味しかったです。



○在タイ日本国大使館視察

在タイ日本国大使館では、最初に領事部を見させていただき、実際に受付をしているところを見ることが出来ました。そのあとは、大使館の方からタイについてのお話や大使館の仕事について教えていただきました。タイについて少しは学習して行ったけれど、知らないことばかりで新たに知ることができたことがたくさんあったので、お話を聞くことができてよかったです。私が特に興味深かったのは、タイ語の仕組みです。この5日間、たくさんタイ語を見てきたけれど、1つも意味が分かりませんでした。話を聞いたからすぐわかるということでもないけれど、5日間で見えてきたタイ語は「こうやって書くのかな」と読めなくてもなんとなくイメージが持てるようになって、タイ語って面白いなと思いました。

大使館の仕事はとても種類が多くてびっくりしたし、大使館に行くまでは具体的にどんな仕事をしているのかも知らなかったので、大使館はその国に住んでいる人にとってとても重要な機関だと今回行って感じました。

最後に大使館の方に「なんで今回タイに来ようと思ったのか」と聞かれたときに、「英語の先生になるために海外に行ってみたくて来た」と答えたら、海外で先生をすることもできるということを教えていただき、自分の視野を広げることも出来ました。



○おわりに

将来の夢である中学校の英語の先生になるために一度は海外に行っておきたいと思って参加して、初めてのことばかりで不安もあったけれど、とても楽しくてもっといたいと思うくらいあっという間の5日間でした。最後には一緒に行った人たちとも仲良くなれてうれしかったです。実際に行くまでは、タイはとにかく「暑い！！」というイメージだったけれど、行ってみないとわからない雰囲気や生活の仕方、文化などたくさんを感じることができました。

また、企業視察では工場などにすごく興味があるわけでもないけれど、町内の工場で行われている作業がほぼそのままタイの工場でも行われているような感じで坂城町の企業ってすごいなと思ったし、名前は聞いたことがあってもどういう企業なのか知らないところもあったから「こういう企業が坂城町で活躍しているんだ」と新たな発見も出来ました。また、王宮に行ったり、夜にタイの街を歩いたり、初めてのことをたくさん経験できてよかったです。

5日間の中で特に楽しかったのは、タイの学生さんとの交流です。最初は、何を話せばいいのかわからなかったり、英語で会話できるか不安な部分もあったりしたけれど、学生さんの方から質問をしてくれたり、いろいろな場所に連れて行ってくれたりしてくれてたくさん話せたし、翻訳を使いながらだったけれど実際に英語で会話できて通じたときはとてもうれしかったです。

今回の研修で学んだことはこれからの高校生活や将来にしっかり活かしていきたいし、海外にあまり興味がなかったけれど、海外も面白いなと思ったのもっといろいろな国に行ってみたいと思いました。



坂城町高校生タイ研修

櫻井瑛里子

○はじめに

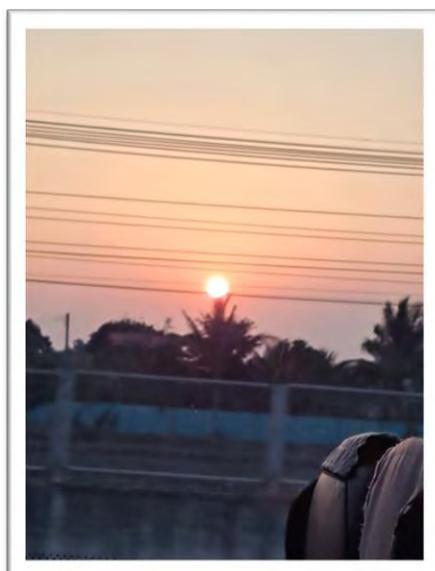
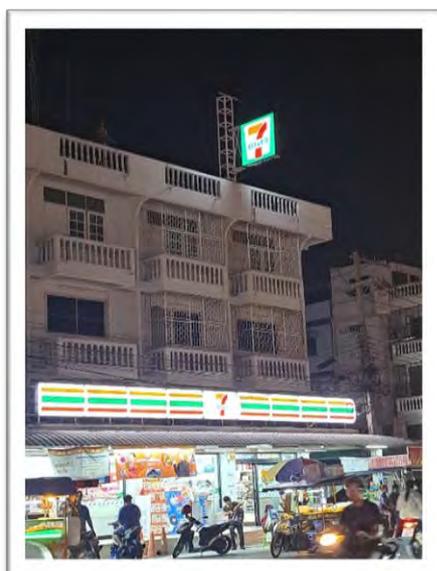
3月24日から28日までの3日間、坂城町高校生タイ研修に参加させていただきました。タイ王国には以前観光で訪れたことがあったのですが、今回は、“研修”ということでワクワクしながらも、はじめは少し緊張しながら参加しました。

初日はアユタヤまで移動するので一日過ぎてしまいました。11時過ぎの羽田発の飛行機で、タイに着いたのは16時過ぎと世界地図を見ると近いように見えていても、やっぱり遠いのだなと身をもって感じました。

飛行機を降りてまず感じたことは、「暑い！」でした。日本より緯度が低く、暖かい気候ということはわかっていましたが、朝、坂城駅でしなの鉄道の始発に乗ったときは気温が一桁だったので長野との気温の差にびっくりしました。

空港からバスでアユタヤのホテルまで直接移動しましたが、道の途中に十数店もセブンイレブンがあることにも驚きました。実際にホテルの前のセブンイレブンに行きましたが、売っているものは日本とは全然違い、セブンイレブンに来ている感覚がありませんでした。

移動中にバスから見えた夕日も日本で見る夕日よりオレンジの色が強く、改めて異国に来ているのだなと感じました。



○タイ進出町内企業視察

(株式会社アルプスツール)

タイ進出町内企業視察、最初は工作機械用のツールを製作していらっしゃるアルプスツールさんを見学させていただきました。タイ工場の入り口には土地の神様の祠があり、日本の企業だからタイの文化は関係ないではなく、タイの文化や信仰を尊重していると感じました。

使用している機械は日本の工場で使用していたものがほとんどで、タイの工場では材料加工から塗装を行っていますが、坂城の工場とは違い、熱処理は外部委託されているそうです。現地の企業とも取引されており、地域に根づいた企業活動をされています。

「坂城の工場の縮小版」とおっしゃっていましたが、従業員一人一人が熱心に業務にあたっていて技術向上に努めているように感じました。安全面も整っている環境で従業員の方々が加工・検査を行っていました。

見学後には、会議室で一人一人に記念品とカオニャオ・マムアンというタイのデザートをいただきました。とてもおいしかったです。



(株式会社カヤマ)

次に、自動車の部品や建機の部品の加工を行っているカヤマさんを見学させていただきました。カヤマさんでは製造機械や加工機械が300台近く活用されており、積極的に自動化に取り組み、加工、検査を行っているそうです。

鉄の加工以外にアルミ製品の加工も行っており、取引先は国内だけでなく、世界中に渡っています。また、生産した部品を自社の工場内で活用もしているそうです。

従業員は230人で、うち管理職についている女性は2人もいるそうです。女性

が活躍されているのがすごいなと思いました。

見学が終わった後はカヤマさんの食堂でお昼ご飯を食べさせてもらいました。日本人の私たちでも食べられるように辛さを抑えてくれたそうですが、私自身辛いのが苦手だということもあり、残念ながらすべて食べることはできませんでした。ですが、私たちのことを考えて、工夫してくださってとてもありがたかったです



(株式会社高松製作所)

3日目に伺ったのは油圧シリンダーや油圧バルブの加工を行う高松製作所さんの工場です。高松製作所さんのタイ工場では吉田工業さんと現地の鋳鉄企業NPMさんの2社とともに、協働でアルミ・鉄製品を造っていらっしゃるそうです。

工場があるアマタシティ・チョンブリ工業団地は4000haの広大な土地を有し、事業を開始してから30年以上が経っていますが、タイの産業発展とともに今なお拡張を続けています。入居企業数も800社を超え、東南アジア最大級の工業団地と言えるでしょう。

3社で連携し、吉田工業さん、NPMさんの鋳造アルミ・鋳鉄技術、高松製作所さんの加工技術を駆使して部品製造を一つの工場で一気に行い、高品質でスムーズな製造を可能にしています。鋳造の様子を見学させてもらいましたが、ただでさえ乾季の暑い季節なのに熱してドロドロにした金属の熱気に気おされてしまいました。型に使われているのは粘土と砂と水で、それらは何度でも再利用できるそうです。

製造されている製品の中にはエレベーターの滑車などがあるそうで、日本やタイで乗ったエレベーターにここで製造された滑車が使われていると思うと、非日常的な経験が日常の経験に繋がっていて感動しました。

(まとめ)

2日間の企業見学を通して感じたことは、工場で働く女性が多いということです。男性に比べて力が弱い女性でも、細かい加工や検査などといった作業では多く活躍しているように見えました。また管理職にも女性が何人かおられ、そういう部分ではタイは日本よりも進んでいるのではないかと思います。

○日本大使館

大使館に行く前に私がイメージしていた日本大使館は、お城のように外壁に囲まれ開けた場所にドンと構えているイメージでしたが、実際に行ってみると市街地の中にあって意外だなと思いました。もちろん厳重な警備体制が敷かれ、とても安全な場所だなとも思いました。

大使館内を見学しながらお話を聞くと、在タイ日本人にとって大使館の中にある領事部は市役所のような役割を担っていると聞いてびっくりしました。会議場に移動してタイの文化や宗教、日本大使館のお話を伺った中で特に驚いたのは、タイの日本大使館では日本人とタイの方が半々であるということや、外務省の公務員でなくとも大使館で働くことができるということです。

大使館は外務省の所属だという知識があったので、日本大使館で働けるのは、



日本の外務省所属の公務員だけではないということには本当に驚きました。また、外務省以外の様々の分野の方が大使館で働くことができることがわかって公務員の仕事についても興味が出てきました。

○おわりに

今回、企業視察や大使館見学のほかにアユタヤ遺跡、王宮、寺院などの見学もし、現地の学生さんとのショッピングもしてきました。

・遺跡

2日目にはアユタヤ遺跡を見学しました。アユタヤ遺跡ではビルマとの戦争によって崩壊してしまった塔や仏像、外壁などを見てきました。神秘的でありながらも、つぎはぎの仏像や傾いた塔は戦争の痛々しい記憶を見せつけているようで

した。

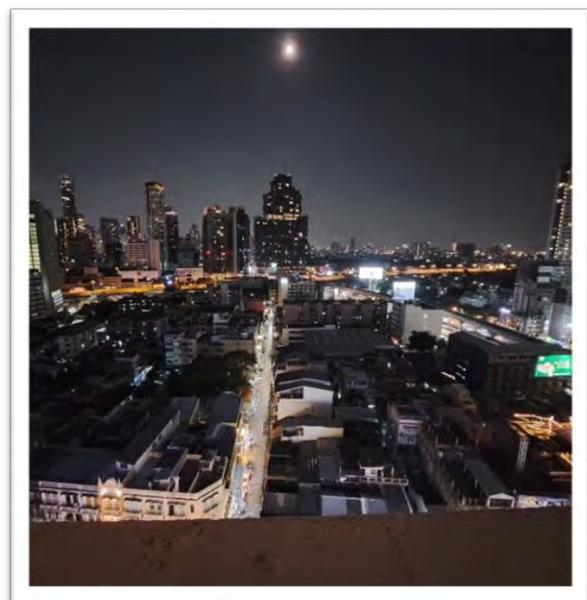
3日目にはバンコクに移動し、王宮(ワット・プラケオ)とワット・アルン、ワット・ポーの涅槃仏を見てきました。王宮(ワット・プラケオ)では、エメラルド仏を鑑賞しましたがとても綺麗でした。また、着ている衣服は時期によって異なるそうです。エメラルド色の体に金の衣服が映えていました。また、王宮内の建物も様々な装飾がされていて、どれも美しかったです。

・その他

夜にはいたるところに屋台が出ており、現地の皆さんは屋台で食事をとることが多いそうです。日本では屋台というとお祭りのイメージが強くて、特別な感じがあると思うのですが、タイではこれが日常だということにとっても驚きました。

アユタヤ、ナコンラチャシマ、チョンブリーなどの場所を訪れましたが、首都であるバンコクとの景色が全く異なっていました。バンコクは、深夜になっても所々明るかったけど、アユタヤは深夜になると真っ暗になっていて、都会と田舎の違いはどこにでもあるのだなと感じました。郊外には畑が多く、見たことがない植物がたくさんありました。

今回の研修ではたくさんの驚きの発見がありました。ガイドの方や、現地の企業の方々に良くしていただきとても充実した研修でした。



タイ国研修で学んだこと

竹内陽祐

〇はじめに

私は3月24日から28日の5日間の研修に参加し、海外で活躍する坂城町の企業の視察を行いました。この研修は海外進出企業の現地における実態を実際に見聞することにより、以前までの海外進出企業に対する大まかなイメージを具体的かつ確実なものにする貴重な機会となりました。

今回研修で訪れたタイ王国は東南アジアに位置する立憲君主制国家であり、日本から飛行機で6時間ほどかかります。首都のバンコクはASEAN経済の中心地であり、東南アジア有数のグローバル都市です。このようなタイ王国には多くの工業団地があり、比較的安い賃金や、世界各地の進出に向けたハブとしての利便性などの理由で、多くの日系企業が進出しています。研修ではナコーンラーチャーシーマー県の(株)アルプスツール、(株)カヤマ、チョンブリー県の(株)高松製作所を視察しました。



○企業視察

株式会社 アルプスツール

アルプスツールはナコーンラーチャシーマー県のスラナーリ工業団地内に所在しています。この工場は坂城町にあるアルプスツールを集約したようになっており、大規模ではありませんが、本社工場で製作される機械の部品をメインに製造しており、日本国内と同レベルの品質の生産機能を有しています。この工場では、NCプログラミングで制御されたマシニングセンターとフライス盤がメインで稼働しており、アルプスツールの部品製造の重要な拠点となっています。また、工業団地の中でも、特に精密な加工ができる工場として知られています。これは、日本から技術者が派遣され、日本の技術を正しく教育し、伝えることによって、両国がともに発展していくことが出来ているからこそ実現していることです。

また、アルプスツールでは、日本国内の災害被災地への支援に必要な設備の生産体制を全力でサポートしており、社会的な貢献をしていることも、素晴らしい企業理念だと感じました。



○株式会社 カヤマ

(株) カヤマもナコーンラーチャーシーマー県のスラナーリ工業団地内に所在しています。こちらは1995年にタイに設立された会社であり、カヤマの製品を海外に輩出する第一拠点として製造・加工事業を展開しています。できる限り、実際に日本で使われていた機械をタイに持ち込み、日本国内と同レベルの品質により製造をしているとのこと。月に数万から20万の生産を行い、不良率は0.4パーセント以下と難易度の高い加工を実現しているそうです。同時に、認証の取得にも積極的で平成28年にはTS16949の認証も取得しているそうです。

また、敷地内には子会社である(株) エスプリの工場もあり、加工に必要なドリルの製作も行っています。必要なものは部品であろうと製作機器であろうと自社で作る、という姿勢に驚かされました。



○株式会社 高松製作所

こちらは少し海沿いに位置するチョンブリー県シラーチャに位置しており、タイで最も大きな海洋輸送拠点であるレムチャバン港が近く、輸送コストでも有利な地帯です。重機の油圧バルブやエレベータのホイール、自動車の部品を製作しています。鋳物鋳造から機械加工までを一貫して行っており、世界中に製品を供給しています。また、自動車部品に関しては、IATF16949 を取得しており、欠陥の予防、無駄の削減をして、国際的に認められた基準を満たし、高品質な製品を供給しているとのことでした。こちらの見学では、高松社長に設備や作業工程の説明をしていただきました。施設の具体的な説明や、実際に製造している製品に触れるなどとても貴重な経験をさせていただきました。

アルプスツール、高松製作所は、両社ともに自動車産業には欠かせない製品の製作に携わっており、日本の基幹産業でもある自動車産業に欠かせない企業であると強く感じました。従来のエンジン車、ハイブリッド車、EV車と、自動車産業は今現在、過渡期にあります。日本が持つ自動車製造技術を海外拠点である国の人と共有し、ともに発展していくことの重要性を感じずにはいられませんでした。



○在タイ日本国大使館視察

大使館では、日本とタイの文化の違いや繋がりについてお話を伺いました。とても具体的な内容で、知らなかったことを新しく学ぶことができました。日本では天然記念物であるカブトガニがタイでは食用として魚と一緒に売られていることにとても驚きました。また、大使館は日本・タイ間の文化交流の促進を目的に様々な活動を行っています。現地に住む日本人とタイの人が親しくなれるよい機会だと思いました。

タイ研修最終日には、現地の学生との交流がありました。英語が苦手だったので、コミュニケーションを取ろうと必死でした。交流した時間は昼間でとても暑かったのですが、現地の人にとってはそれほどでもないと言われ、とても驚きました。タイでも日本のサブカルチャーは人気で、タイ語に翻訳された漫画なども置かれていました。散策したショッピングセンターの中には日本のプラモデルを売っている専門店もありました。

○終わりに

この研修で、海外に進出する企業の、日本と海外の工場の違いを直接確認することができました。海外では現地の方々とのコミュニケーションを尊重し、技術を伝えることで、互いに発展していくことができる、とても充実した環境が整っていました。更に、日本とは異なる文化による建物、食事などとても興味深い体験をすることができました。これらの貴重な経験をこれからは活かしていきたいと思います。この度、研修に協力して下さった皆様方のお陰で無事に帰ってることが出来ました。本当にありがとうございました。



タイ国研修をおえて

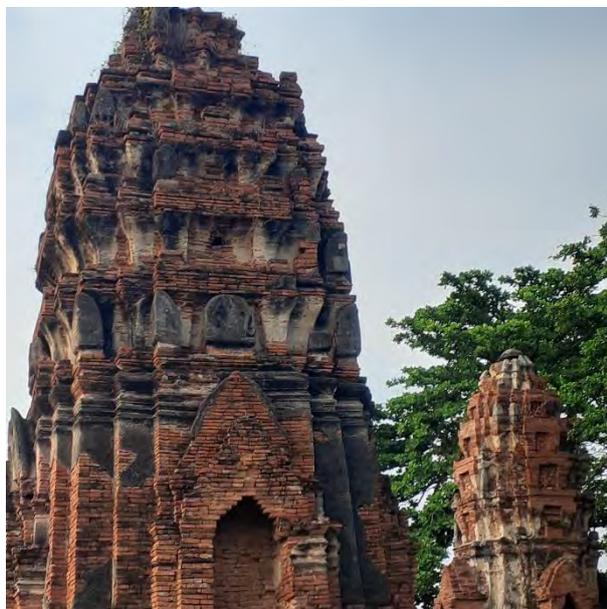
宮崎 快斗

〇はじめに

私は3月24日から3月28日までの5日間、坂城町高校生タイ国研修事業に参加し、タイ進出企業のアルプスツール、カヤマ、高松製作所を視察させていただきました。そして企業視察の後に在タイ日本大使館も訪問しました。私がこの研修に参加した理由は、タイで坂城町の企業がどのように活躍しているのかを知り、将来つく職の視野を広げてみようと思ったからです。また、タイでの人々の暮らしやそれに根付いている文化と歴史を知りたいと思ったからです。

タイに着いてまず思ったことは暑いということです。空港から出ると熱風を肌を感じ、日本の真夏のような暑さでした。バスでの移動中、バスガイドさんがタイと日本の違いについて話していました。中でも驚いたのはタイの都市部の近くには スラムがあり、貧富の差が激しいということです。タイに着いたときは大きなビルなどがたくさん建っているのを見たので、その違いにとっても驚きました。

ホテルに着くとタイ料理の夕食を食べました。タイの料理はとても辛かったのですが、ココナッツや砂糖がいいアクセントになって、辛さの中にコクを感じました。夜は外に並ぶ屋台を見て周り、日本ではあまり目にしないドリアンやマンゴーなどの果物が売っているのを見ました。そうして初日が終わり、2日目からは企業視察をしていきました。



○企業視察

【株式会社アルプスツール】

2日目からの企業視察では、はじめに株式会社アルプスツールを視察させていただきました。社内は冷房が完備されており快適に仕事ができる空間が整っています。

この工場では、主に自動車部品の製造をしていました。日本との違いもいくつかありました。一つ目は作業工程の多さで、日本では表面処理などの工程は他社に依頼しているのに対し、タイでは穴あけやマシニングセンタでの加工など、熱処理以外の作業工程をすべて行っています。二つ目は使用している機械の違いで、新品の機械ではなく日本の工場から古くなった機械を持ってきて製品を製造しています。理由は、中古の機械を買うと、機械のプログラムを組まなければならないため手間がかかってしまうためです。三つ目は水の違いで、タイの水は硬水のため機械で加工する際に合わないため、工場では硬水から軟水にする機械を使って水を変換しているとのことでした。



タイ工場で働いている従業員はほとんどが現地の人です。従業員への教育は日本の本社から派遣された人が行っており、通訳を通してコミュニケーションをとっていました。従業員に支払われる賃金は日本と比べるとまだまだ安いのですが、毎年賃金も上がっているそうです。

そして、工場で生産された製品は、日本、中国、タイへ出荷されています。現地の事業者との取引は少なく、日系企業との取引を主に行っているため、今後は現地の企業との取引も視野に入れていくそうです。

【株式会社カヤマ】

つぎに、株式会社カヤマを視察させていただきました。株式会社カヤマは自動車部品を製造しており、年間二十億円の売り上げがあります。取引の内訳は海外と日本で半分ずつとなっています。

生産している、車のコンプレッサーなどの部品は年間約20万個以上で、フォルクスワーゲンや日産自動車の車に使われています。生産ラインは日本にあったものをタイに移設したとのこと。使用する材料は主にアルミと鉄で、供給不足が起こらないようアルミを6社、鉄を7社から調達しています。

日本の工場との違いもありました。日本の工場ではほとんどが機械によって自動で生産されていますが、タイでは人の手によって生産されていて、一部の作業を機械が行っていました。これはタイの賃金が安いことで、機械よりも採算が取れるからだそうです。作られた製品は塗装工程に入り、磁石の力により粘着塗装工程がされていました。

工場内では工具の生産も行っていて、超硬合金の切削工具などの加工用のツールも自社製造していました。作られた工具は1割を自社で使用し、9割を現地の人に販売しているそうです。

カヤマは製品の品質管理にも力を入れていて、人の手による検査の後、穴が開いていないかを検査するデジタル測定によって、徹底した品質管理を実現していました。従業員の募集はインターネットや会社の前の張り紙で募集していて、人はすぐに集まるそうです。また、入社した従業員の育成にも力を入れており、長く働いている社員を日本のカヤマに送って従業員の技術の向上を図っています。従業員の年数は帽子の色で区別していました。現在は4つの工場があるのですが、タイに進出してきた時はそれよりも少なく、機械も数十台から始めたそうです。最近では中国での部品需要の減少などもあり従業員を削減しているそうです。



【株式会社高松製作所】

3日目の企業視察では株式会社高松製作所を視察させていただきました。高松製作所ではエレベーターの部品や車のエンジンの足回りの部品、農業用機械の部品などを生産して、三菱のエレベーターや日産やダイハツなどの自動車に部品が使われているそうです。高松製作所は部品の製造だけでなく、製品の試作を依頼されたりもするとのことでした。工場は2つあり第1工場では鋳造、第2工場では鋳物の加工を行っていました。

日本との違いは工場の作業工程の多さです。日本では切削加工に専念しているのに対して、タイでは日本では行っていない、製品を鋳造するところから切削加工までを行っていました。鋳造に使う鉄は夜に溶かしていて、これはタイでは夜になると電気代が昼間と比べ安くなるためです。鋳造製品の中の空洞がどう作られるのかも説明していただきました。中に熱で崩れる砂型を入れ、金属を流し込むと砂型が崩れて中に空洞のある製品ができるそうです。また、鋳型を熱から保護するために塗型を塗っていました。砂型は再利用できるようになっていて、水を含めばもう一度使えて環境にも配慮されています。

作業工程も材料によって人の手で行ったり機械で作業したりと違いがありました。できた製品は、研磨や旋盤での穴あけ加工をしたのちに熱処理で強度を高めていました。工程の中で重要だったのはアルミ製品の切削で、切削には水の温度



管理が重要で、温度が違うと規格からずれてしまうそうです。そのため、水の温度は2時間おきに調整され、品質検査でも水と同じ温度に室内温度を設定しているそうです。そうしてできた製品は、表面に油をつけて錆を防ぎ、注文内容に応じてアルマイト処理を施して出荷していました。

○在タイ日本大使館

3日目の午後は在タイ日本大使館を訪問させていただきました。大使館では、いくつかの部門に分かれてそれぞれの仕事をしていました。私たちは2階の1室に案内されて、領事部の人からお話を聞きました。領事部のお仕事は、タイにいる日本人約8万人から10万人の身に危険が及んだ時のために、危険情報の発信や収集をしているそうです。大使館で働いている人は半分以上が外国人のため、日本の職員一人一人の仕事が大きい仕事です。そのため地方への出張などもあり、その時は現地の人からとても歓迎されるそうです。

また、タイと日本の関係性について、歴史を踏まえて教えていただきました。日本とタイの正式な外交関係が始まったのは135年以上も前のことだそうで、さらに昔には日本人の町がタイにもあったそうです。現在は日系企業6,000社が進出していて、タイの発展に貢献しています。日本の文化もタイでは大変人気があり、特にアニメや漫画がとても人気だそうです。教育の面では日本独自の高専のシステムを取り入れた高専プログラムが行われており、技術者の育成を手掛けています。大使館ではタイへの開発の協力も行っており、日本からの援助で道路を造ったり橋を架けたりするのを手伝っているそうです。大使館のお休みはタイの休みに合わせていて、タイ独自の休みの日程でした。他には国際的な交流のイベントの呼び掛けも行っていました。

○おわりに

今回の研修を通してタイで活躍する坂城町の企業の技術力の高さを実感することができました。見学した会社でたくさんの発見や学びがありました。

まずは製品づくりで、精密な製品を安定して作り続けるための技術や品質管理の高さを実感しました。次に人材育成で、会社で働いている現地の人々のスキルを磨くために日本人の職員が教育や研修を行って



いるということを知り、社員の育成だけでなくタイ国発展のためにも貢献していると感じました。また、言語を身に着ける大切さも感じました。企業視察で通訳を介して従業員とコミュニケーションをとっている企業や英語でコミュニケーションをとっている企業があり、将来海外での仕事を任されるには言語の習得が必要だと感じました。この体験を生かして将来の自分の進路選択に役立てたいです。

高校生タイ国研修事業に参加して

服部 遼太郎

○はじめに

私は日ごろニュースなどで情報を集め、主に諸外国の情勢などについて考えています。

めまぐるしく世界情勢が変動する今日、私はこの研修事業を知って、今回の研修事業で、タイに坂城町の企業があることを初めて知りました。

更に、自分の家の近所の(株)カヤマ様など坂城町の企業がどんな仕事をして、どのようにタイの人々と関わっているのか大変興味があり応募しました。

更に、なぜ坂城町の企業が海外の中でも「タイ国」に進出しているのか疑問に思い知りたいたと思いました。

そして、実際にタイ国に行き、私は疑問を解決でき、更にタイ特有の文化、特に、質素な日本の寺と真逆の、豪華絢爛なエメラルド寺院などが印象的でした。

○企業視察

【株式会社アルプスツール】

株式会社アルプスツール様では、日本でもタイでも「機械を作る機械」、「マザーマシン」の部品を作っていて、生産施設では「日本人がタイ人のために専門的な作業を 教える」という形をとっていて、後述の会社様方と比べ、日本人が多いという特徴がありました。

また、顧客はタイ現地から日本まで幅広く仕事がありました。

その他には生産ラインを使った大量生産ではなく、一つ一つ丁寧に生産していました。



信頼性に関しては、日本と比べると多少低いが問題はないとのことでした。また、アルプスツール様ではタイの水に関する事情を聴くことができました。

「タイの水は、日本の軟らかい水「軟水」に比べて硬い水「硬水」なので、この水の影響で金属が錆びやすくなっていて苦労している」との事でした。確かにタイ現地でもらった飲料水は、日本に比べて口当たりが「何となく硬い」と感じました。



【株式会社カヤマ】

株式会社カヤマ様のタイ工場は、現地企業などの共同会社ではなく 100 パーセント日本の会社で、男女比は 3 対 7 でした。日本の工場と最も違う点は人の数の多さで、圧倒的にタイの工場のほうが多かったです。

この理由は、日本では人件費がタイに比べ高く、工場の自動化が進んでいるからです。

しかしながら、近年タイでも人件費が上昇傾向にある為、将来的には自動化を進めるとのことでした。

現在は、人件費を抑えるため、ベトナム、ラオス人民共和国等の周辺諸国からの労働者もいるそうです。

また、工場は 21 時間稼働しており、日本と比べ残業手当が充実していて、通常の労働時間の賃金の 1.5 倍、更に休日の手当はもっと充実していて、通常の労働時間の賃金の 3 倍でした。

また、カヤマ様では日本の工場に対して、タイの工場から研修生を向かわせて「タイの労働者が日本で技術を習得して、タイに帰国してから専門的な知識や技術を教える」という形をとっていて、労働者同士のコミュニケーションを重視していました。

【株式会社高松製作所】

株式会社高松製作所のタイの工場は、現地企業などを含む3社の協働会社で、立地はバンコクに比較的近く、工業団地も近いといった好立地です。

また、工場の敷地はかなり広くまだまだ拡大できるとのことで、実際敷地に余裕があるために、工場の敷地の中ではクジャクや鶏、犬などを飼育していました。

生産しているものは3社で分かれており、主に製鉄、油圧部品などの生産やアルミの加工をしており、高松様は油圧部品などの生産をしていて、具体的に加工しているものは機械の中でもコンプレッサーやエレベーターのワイヤーに関係する部品を加工していました。

日本の工場との差は「ものづくりの範囲」で、日本では「削る」加工が主ですが、タイの工場では「鉄やアルミを溶かして削る」といったものでした。



○在タイ日本国大使館

在タイ日本大使館では最初に領事部の見学をしました。領事部の見学では国民投票用の投票箱があり、タイ国に行っても日本国民として政治に参加できるようになっていました。

次に、タイ国の大まかな概要を教えてくださいました。特に驚いたのは、都市の経済規模の話で、日本の東京都と大阪府の経済規模の差が2倍で東京に中枢が集中しているという話がよくありますが、タイでは首都のバンコクと2番目の都市チェンマイとの差が7倍というのを伺って、タイは日本以上に集中していることを知りました。

他には、タイは立憲君主制国家でありラーマ十世王が君主で、日本の皇室とは

違い王室を前面に出しており、夜の8時から王室関連の番組が放映されていて、日本とは違い王様の誕生日だけでなく王族の誕生日も祝日です。

宗教面では仏教が一番多く信仰されており、電車では優先席にお坊さんも座れるようになっています。お坊さんの服はオレンジ色の衣に裸足が基本で、お寺も質素な日本の寺と違い豪華絢爛で、最終日に見学したエメラルド寺院は壮観でした。

また、政治面では政党が多く、現在は保守勢力対タクシンの構造で、首相はセター・タウィーシンです。

ほかには果物が非常に安く、日本では1,000円で買えるマンゴーがタイではおおよそ200円で買えるほど安いです。

日タイ関係は400年前の朱印船貿易に始まり、田沼意次の時代にアユタヤ日本人町が出来たり、近代では日シャム修好条約を結んだり、タイで見つかったブッタの骨の一部が日本に寄贈されて、タイの協力のもと名古屋に日泰寺が造られたほかに、太平洋戦争では日タイ攻守同盟のもと日本側で参戦、戦後は日貸排斥デモが起きるも日本の外交方針が福田ドクトリンの元、東南アジア重視になりODAなどでタイのインフラを構築しました。

このように、日タイ関係は歴史的に見ても友好的であり、大使館では事前学習以上にとっても濃厚な話を聞きました。



○終わりに

今回の研修旅行は最初、料理や航空機、犬、熱さなどの不安がありましたが、付き添いの方やガイドさんのおかげで安全に・安心して研修旅行が出来ました。

企業の見学では、研修事業に行く前の想像以上にタイの工場の設備が整っていて驚きました。更に、タイはまだこれから発展していくと思いました。なぜなら、タイには日本に比べ圧倒的に空いている土地が多く工業化の余地があるか

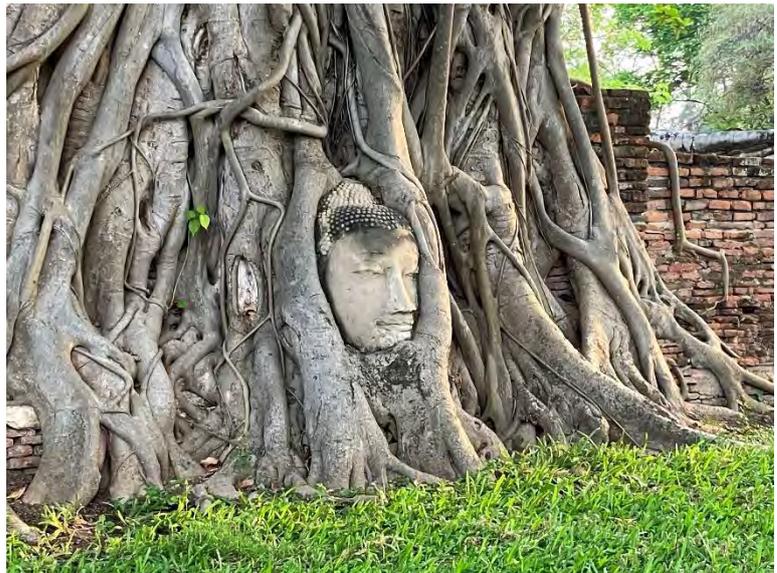
らです。しかもタイの土地は平坦で開発がしやすいと思います。これからは、タイ国に積極的に日本企業が進出して専門的な技術を広げる事が重要と考えました。

そして私は思いました。坂城町の企業は、タイ国に進出する日本企業としての先駆けであると、私は坂城町の企業を「日本の誇る企業」として、誇りに思います。

また、今回の研修旅行では様々なことを聞いて、学びましたが、一番大事だと思ったのは「英語」です。近年、インターネットの普及により、海外の方々とコミュニケーションをとる場が圧倒的に増えました。そんな中、今回の研修旅行では、現地高校生との交流がありました。英語でコミュニケーションする場面で、表現したい単語が思いつかなかったり、相手の言った英語を聞き取ることが出来なかつたりと、不甲斐ないと思いました。

そして私は理解しました。将来の坂城町、ひいては日本国で役に立つ人材になるには、まず英語ができるようにするべきだと、研修旅行に行く前でも英語は重要だと思っていましたが、今回の研修事業では、今現在の社会で英語ができないことに危機感を持ちました。

今回の研修旅行を通して、これからは英語の勉強を頑張っていきたいと思えます。



坂城町高校生タイ国研修

高橋 瑛優

〇はじめに

私は日本だけでなく世界へ出て、たくさんの体験や交流をして自分の人生の経験を増やしていきたいと思いこのタイ国研修に参加しました。

私はタイ国研修に参加する前、タイは汚い・臭い・治安が悪いとあまり良いイメージがありませんでした。日本と気温も匂いも違うので体調を崩さないかなど色々考えてしまい、タイに着いた日はワクワクと不安が半々でした。ですが、それは最初だけでタイの人の優しさなどを受けて、私が思っていたのとは全然違うイメージに変わりました。



○企業視察

【株式会社アルプスツール】

アルプスツールでは鉄を削ったり、加工したりして工作機械に取り付ける部品などを作っていました。



工場を見学して聞いた話では、タイの水は錆びやすいので機械を使ってきれいな水に変えているということで、鉄も錆びやすいのできれいな水を使わないといけないのかなと思いました。また、日本の工場よりもタイの工場は小さいけれど、日本よりも仕事の

種類が多いというのを聞き、大きい小さいは関係ないのだと感じました。



【株式会社カヤマ】

カヤマでは自動車の部品加工や自動販売機の部品などを作っていました。タイのカヤマは 1995 年 1 月に設立されました。従業員は 340 名で女性の方が多い印象でした。工場が 1～5 まで



あって、工場 1 が 1996 年にでき、一番新しい工場 5 は 2011 年にできました。

話を聞き、印象に残ったのは、材料を集めるのが難しいということでした。一社ではすべてが集まらないというのは大変だと思いました。

【株式会社高松製作所】

高松製作所では自動車の部品や建設機械の部品・機械の部品などを作っていました。

タイではアルミを溶かすところからやり、溶かしたアルミを型に流し込んで作ったり、加工をしたりしていました。タイは電気料金が高いので、アルミを溶かす作業は夜にやっているそうです。

日本では加工だけでしたが、タイでは作業範囲を広げて行っていました。



○在タイ日本国大使館視察

大使館では、タイのことや大使館はどんな仕事をしているのかなど話を聞きました。タイに行く前に自分でも少しタイについて調べましたが、話を聞いて知らないことのほうが多かったです。日本の電車では優先席の対象は妊婦さん・身体障害者・高齢者などですが、タイではお坊さんも対象になるということを知って、タイは宗教を大切にしていると感じました。曜日によって色があることやタイの人は自分が生まれた曜日を言えることなど日本と違うところがたくさんあって、聞いているのも楽しかったです。また、私は大使館がどんな仕事をしているのかを全く知らなかったもので、タイに住んでいる日本の方の支援や情報の収集・分析など、大使館の仕事がどういうものなのかを知ることができて良かったです。



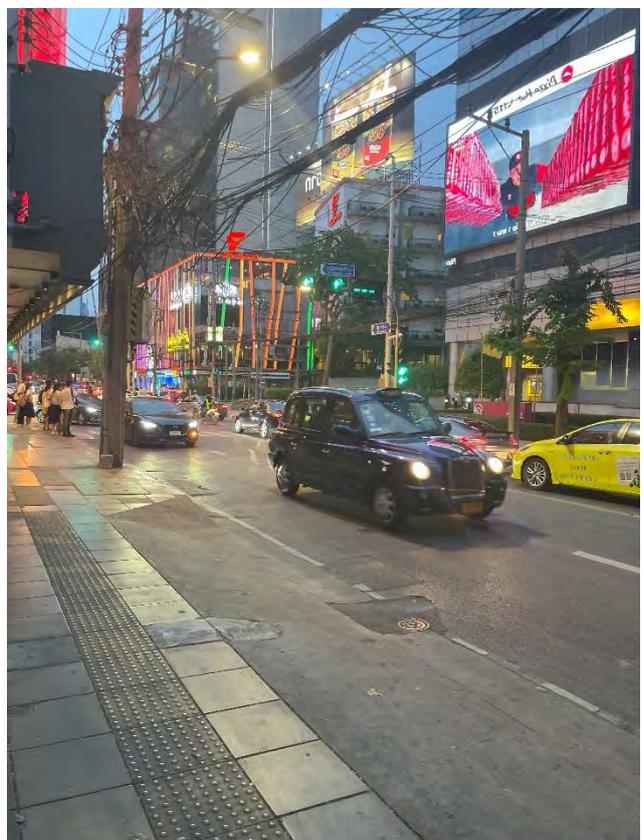
○最後に

私は自分で行って実感してみないとわからないことがあると改めて感じました。タイは治安が悪そう、タイは汚そうなど行ってもいけないのに決めつけているので行くのをやめようと思ってしまうのだと思いました。

タイの人は、私がお会計の時に困っていたら助けてくれたり、言葉がわからなくて戸惑っていたらわかるように話してくれたりしたおかげで楽しく過ごせました。特に楽しかったのはトゥクトゥクでした。そんなに距離は乗っていませんが、一度は乗ってみたいと思っていたので乗れてよかったです。運転してくれるおじさんが面白くてフレンドリーで、さらに楽しめました。きっと私はこういう機会がないとタイに行くことはなかったと思います。調べたり話を聞いたりしてもあまりいいことが書いていなかったの、今回行ってみて全然違って驚きました。



帰るときは、もう帰るのかと思ってしまうくらい楽しむことができました。たくさん思い出ができたし、経験もできたので良かったです。今回参加してみて、もう一度タイに行きたいと思いました。今度行くときは今回行ってない水上マーケットに行ったりぞうに乗ったりしたいです。



坂城町高校生タイ国研修会

長谷川 瑠陽愛

〇はじめに

私は坂城町高校生タイ国研修会に参加しました。以前から海外には興味があり、文化や食べ物は日本と何が違うのか、自分の肌で感じたいと思っていました。

タイのイメージとして、暑いとか、治安が悪いなどと思っていましたが、実際に行ってみたら、現地の方は優しく笑顔で対応してくれ、温かく接してくれました。日本語で「ありがとうございます。」というと、明るい顔で「ありがとう。」と、返してくれ、タイ語が言えなくても、ジェスチャーなどで話すことができ、とても楽しかったです。



そして、バンコク・アユタヤや、タイのスーパーマーケットなど、色々行ってきました。日本とは違う風景だったり、建物だったりまるで未知の世界に来たようでした。

○企業視察

【株式会社アルプスツール】

アルプスツールさんは、2015年にタイのナコンラチャシマにツーリング専用工場を開設し、2021年6月18日に設立しました。タイでの業務内容として、産業機械用各種工具・付属品、NC旋盤用バーフィードの製造・販売をしています。

見学していて、温度が23℃から25℃で設定してある部屋があり、働くにはとても過ごしやすい環境だと思いました。しかし、機械を扱っている場所はエアコンがあってもすごく暑かったです。

そして、タイの工場で働いている人は坂城町にある工場よりも人が少なく、手を使って作業する時の細かいところや、重い物を運ぶ時などは大変だなと思いました。ですが、タイの皆さんは日本よりも暑いのに、熱に負けないで黙々と作業をしていました。皆さん忙しいのに、すれ違う時に笑顔で挨拶してくれるなどと優しく接してくれて嬉しかったです。

最後に、アルプスツールさんで、タイ米を使ったデザートいただきました。ココナッツのシロップをかけてマンゴーなどと一緒に食べる、という初めてのデザートで、今までに食べたことのない味でした。モチモチで、甘くてとても美味しかったです。記念にノートとマグカップとお水もいただきました。帰国するときにマグカップが割れないか心配でしたが、無事に日本に持って帰ることができました。



【株式会社カヤマ】

カヤマさんは、1996年1月に会社設立し、1997年4月に操業開始しました。事業内容は、部品加工/自動車部品・建機部品・コンプレッサー部品、特殊工具/設計・制作・販売をしています。

タイでカヤマさんの工場に行ったとき、案内して下さった2人の方しか日本人がなくて、他の従業員はタイの方だけだそうです。機械に囲まれて作業していて、1つ1つの機械がとても重たそうでした。



カヤマさんでお昼をいただきました。本場のガパオライスは初めてで、すごく辛いのが印象的でした。米もタイ米というよりは日本米の食感で、スープは日本の味がして、とても心がホッとしました。

ガパオライスをタイで食べられて嬉しかったです。



【株式会社高松製作所】

高松製作所さんでは、自動車用エンジンブラケット、クラッチシリンダー、シャフト、ギア、ウォーターポンプ用ボディ、エレベーター用滑車、エアコンプレッサー用シャフト、農機具用ブラケット、プレート等を主に製品していました。自動車用、農機具、建設機械から電気部品まで幅広くビジネス展開しています。

製品を作っているところを見てみて、工場の建物がとても大きくて見上げるくらいでした。機械も大きいものがたくさんありました。

外に移動して、鉄を流し込む場所に行きました。熱々の鉄をすくい上げて入れる作業を人の手で行っており、ビックリしました。流し込んでいるところを見させてもらいましたが、熱気が肌にまで伝わってきて汗が滝のように出てきました。それを作業員さんがやっているの凄いなと思いました。



そして、お昼は社食をいただきました。ピリ辛の焼きそばやフルーツがあつて、どれも美味しくて、タイのフルーツってこんなに美味しい物なのかと思うくらい甘くて美味しかったです。また食べられたらいいなと思いました。



○在タイ日本国大使館視察

大使館に入るときに、建物の壁が高いと感じました。中に入ると、とてもセキュリティーが高くて簡単には侵入出来ないと思いました。

場所によっては一般の方も入れる所があり、パスポートや住民票などを取り扱っていました。実際に来ている方がおり、日本語を話して担当していた方も日本語で案内していたので、安心して受付できることなどがとてもいいなと思いました。

案内説明書やポスターなども日本語で書いてあり、まるで日本の市役所にいるみたいでした。

お話を聞いて、タイのイベントや文字の意味、タイについての事を色々聞かせていただきました。私自身、タイで知らないことがたくさんあって、スライドでの説明を聞く中で、こんなことをタイではやっているんだと思いました。

タイの季節の話があり、乾季は11月～3月で暑季が4月～5月、雨季では6月～10月に分かれていて、雨季の写真を見たところ洪水しているようでした。私たちが行ったときは、乾季で少し過ごしやすかったです。

お話の途中で、将来どんなことをしたいかの話題になりました。私は、大使館での話を聞いて、もっとタイについても知りたいし世界中のことも知りたいと思いました。これから、進学・就職で悩む時期がきますが、ここでの話を忘れずに、将来世界に携わることが出来たらいいなと思います。



〇おわりに

私は、初めての飛行機と海外でワクワクしていて、動画や写真でしか見たことのない景色を、この研修を通じて自分の目で見ることができました。

そして、高校生という立場でとてもいい経験をさせていただいて、本当に感謝しかないです。日本では出来ないこともたくさんできて、楽しかったです。

タイのスーパーで買い物をした時に、レジをしてくださった店員さんがとても優しい対応してくれて、帰り際に「バイバイ」と手を降ってくれて嬉しかったです。コンビニでも、お金の出し方が分からなくて困っていたら、助けてくれました。タイの人達は本当におもてなしをしてくれたので、楽しい研修になりました。

タイで過ごしていて、色々な建物に入って気づいたことがありました。「土地の神様」と呼ばれるものでした。そんな土地神が家を守り、住人に幸せを運び、危険を回避して幸運が訪れると信じているといいます。色々な種類があって、場所によっては形が違ったり、カラフルな神様があったりしました。実物を見られて良かったです。

バスで移動しているときに、アヒルの大群を見ました。日本ではあまり見られない出来事だったので、興奮してしまいました。私はアヒルが大好きなので、たくさんのアヒルを見られて嬉しかったです。

また、この研修を活かして、これから世界に関われる仕事が出来たらいいなと思いました。



タイの風を感じる春

坂城町

高校生タイ国研修

令和6年

3.24▶28

Sun

Thu

【3泊5日】



坂城町高校生タイ国研修 参加者募集

坂城町在住 または
坂城町の高校に通う
高校生のみなさんへ

応募締切 令和5年12月8日（金）

募集人数：8人

坂城町在住又は坂城町の高校に
在学する高校生（学年不問）

参加費：11万円

別途燃油サーチャージ代が
かかる場合があります

応募方法：申込書を下記申込先まで提出してください

申込書は申込先と町HPで配布しています
<https://www.town.sakaki.nagano.jp>

研修概要

- タイ進出町内企業
3社の現地工場視察
 - 在タイ日本国大使館見学
 - 異文化・歴史体験 ■現地学生との交流
- 【研修コース バンコク～アユタヤ】

視察予定企業（五十音順）

(株)アルプスツール 様
(株)カヤマ 様
(株)高松製作所 様

詳しくは町HP・
SNSをチェック！

坂城町高校生タイ国研修会 🔍



お申込み・お問い合わせ先

坂城町役場 高校生タイ国研修事業事務局
(役場2階企画政策課 企画調整係内)

TEL：0268-75-6211（直通）0268-82-3111（代表）
E-mail：k-chousei@town.sakaki.lg.jp

令和5年度 坂城町高校生タイ国研修



令和6年 3.24Sun▶3.28Thu【3泊5日】

バンコク・アユタヤ・ナコンラチャシマ・シラーチャ

坂城町では、町内の高校生を対象に、海外展開する坂城町の企業を現地で視察し、坂城町の底力を学ぶとともに、タイの学生や企業で働く皆さんとの交流を通じて、豊かな国際感覚を養ってもらうため、「坂城町高校生タイ国研修」を実施しています。
この春休み、世界のこと、学び育ったふるさと坂城町のことを学んでみませんか？

アユタヤ ○ 異文化体験
ナコンラチャシマ ○ 企業視察
バンコク ○ 日本大使館見学
現地学生との交流
シラーチャ ○ 企業視察



参加者募集要項

- ◆研修の目的 将来の坂城町を支えていく町内在住の高校生や町内の高校に通う高校生に、海外で活躍する町内企業の視察のほか、現地の学生との交流や歴史・文化などの異文化交流を通じて、国際感覚を養い、坂城町、更には日本を再認識するとともに、将来展望を考える機会とする。
- ◆研修期間 令和6年3月24日(日)～3月28日(木) 3泊5日(機中1泊)
- ◆募集定員 坂城町在住の高校生又は坂城町の高校へ通う高校生 8人
- ◆応募資格 (1)応募時に、坂城町在住で高等学校に在学中又は町内の高等学校に在学中であること
(2)事前研修及び帰国報告会等に参加できること
(3)心身ともに健康で、タイ国での研修意欲が旺盛であること
(4)主催者の計画や引率者の指示に従って規律ある行動や団体生活ができること
(5)保護者の同意及び学校の承認があること
- ◆参加費 110,000円
【旅行代金に含まれるもの】※一部体験学習等に伴う経費を除く
・航空運賃 ・宿泊料金 ・食事代金 ・観光料金 ・企画料金 ・空港施設使用料
・手荷物運送料金(航空会社規定料金) ・添乗員経費 ・現地空港税 ・日本国内交通経費
【旅行代金に含まれないもの】※参加者が各自で支出する経費
・海外旅行傷害保険料 ・パスポート取得費 ・個人的性質の諸費用(電話、追加飲食代等)
・旅行準備のための経費 ※別途燃油サーチャージ代を負担いただく場合があります。
- ◆応募方法 タイ国研修事務局〔坂城町役場企画政策課〕及び 町 HP で配布する申込書に必要事項を記入し、事務局に直接持参するか、又は郵送により提出する。
【坂城町 HP : <https://www.town.sakaki.nagano.jp>】
- ◆応募締切 令和5年12月8日(金)
- ◆選考方法 書類による審査〔参加志望動機〕
- ◆その他 帰国後、1か月以内に指定する報告書を提出すること

フェイスブックで過去の研修の様態をご覧になれます



お問い合わせ・お申込み先

坂城町役場 高校生タイ国研修事業事務局 TEL 0268-75-6211(直通) 0268-82-3111(代表)
(役場2階 企画政策課 企画調整係内) E-mail k-chousei@town.sakaki.lg.jp

令和5年度 坂城町高校生タイ国研修事業に係るスケジュール

月	内 容
9月26日(火)	令和5年度 タイ国研修プロジェクト会議 <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容について〔研修行程の検討〕 ・参加者募集について〔募集要項の検討〕
10月～11月	参加者募集及び申込受付開始 <ul style="list-style-type: none"> ・町ホームページ、広報11月号 及び ポスター配布等による周知 参加申込期限 12月8日(金) (1か月半の申込期間) ・研修事業参加希望者に対する学校承認依頼について
12月13日(水)	令和5年度 第2回タイプロジェクト会議 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者選考 → 参加者決定 決定した参加者への通知
1月23日(火)	参加者事前説明会 (研修に向けての手続き等) <ul style="list-style-type: none"> ・旅券 (パスポート) 取得申請 及び 旅券 (パスポート) コピーの提出 ・海外旅行保険の申込み ・研修参加費の納入
2月中旬	参加者氏名・人員の最終報告
3月6日(水)	研修出発前勉強会 (出発前最終確認、日常タイ語研修) (研修先(視察先)企業事前勉強会)
	タイ国研修 3月24日(日) ～ 28日(木) 〔3泊5日〕
5月23日(木)	帰国報告会の開催